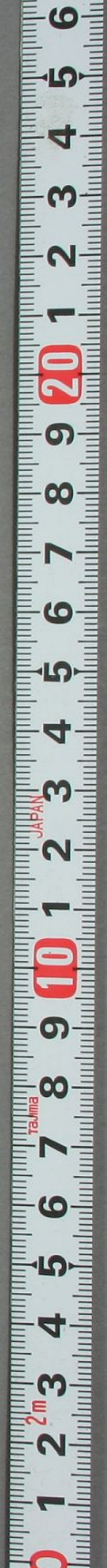


楚  
胡  
之  
花

全



~ 5  
1816





胡之花上

序

元禄辛巳の

卯七月廿七日也

此序の

巻有る

先宗御

才の

...

...

...

...

...

...

...



...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...





文海

ひしもの本紙十しりる星り  
乙島と端らうきぬりる  
水無りの布を白土の砂うら  
乙所の名もさうらう法らう那

あさきりうそせう

つらうやそくやうんらう  
乙島つらうそ紙うらう

紙と乙下うらう

傘のひもとまふう乙とら  
舟のまも深しうりうそ  
うらうやまのうらうやりのま

乙部  
乙部  
史全

る  
支考

後  
許六  
杉風

わの竹十日そふ文もすうら  
津うらうまうすうらう  
辰とんを笹のうらうそ

人のうらうそ

揚うまうそ中流系うそ  
本のうらうそとらうそ  
瓦子のうらうそ折うすうそ  
唐原うらうそ馬のうらうそ  
口うらうそ白砂のうらうそ  
おのうのうらうそやうそ  
杉島うらうそ星のうらうそ  
夕立舟のうらうそ月やまのうらうそ

秋之坊  
虚舟  
巳三  
北枝  
林紅  
牧童  
丹楚  
浪化  
八景  
文州

白かき川もどろくや竹の中  
中かき川もどろくや竹の中  
中かき川もどろくや竹の中  
中かき川もどろくや竹の中  
中かき川もどろくや竹の中  
中かき川もどろくや竹の中  
中かき川もどろくや竹の中  
中かき川もどろくや竹の中

名のり

乃れとは年一たび  
乃れとは年一たび  
乃れとは年一たび  
乃れとは年一たび  
乃れとは年一たび  
乃れとは年一たび  
乃れとは年一たび  
乃れとは年一たび

杉 鹿 邦 香 万 小 桐  
初 従 里 欲 子 枝 之  
去 末 仙 末 枝 之  
白 河 風 去 桐 小 桐  
五 四 仙 末 枝 之

路のまゝの花の  
路のまゝの花の  
路のまゝの花の  
路のまゝの花の  
路のまゝの花の  
路のまゝの花の  
路のまゝの花の  
路のまゝの花の

大かき

ありしゆかえ  
ありしゆかえ  
ありしゆかえ  
ありしゆかえ  
ありしゆかえ  
ありしゆかえ  
ありしゆかえ  
ありしゆかえ

柳 十 常 文 鳥 桐  
士 冶 任 任 水 之  
后 末 仙 末 枝 之  
去 末 仙 末 枝 之  
白 河 風 去 桐 小 桐  
五 四 仙 末 枝 之

秋の夜の静けさ

らり〜〜の夜も中りや秋も  
ま〜〜の夜も田舎の静けさ

秋の夜の静けさ

秋の夜も静けさの静けさ  
秋の夜も静けさの静けさ

秋の夜

秋の夜も静けさの静けさ  
秋の夜も静けさの静けさ

人後

諷作  
原倉

木因

子考

子

新人

山

月

夕

好風

冠字

才

文

鳥水

夕

巴

北

久

洞

海人 野力  
才登

生九坊と云う

宇白

不旧  
一魚  
管音

体七店

枇杷  
与考

監吹  
井石  
品風  
巴了

三三三三三

羊後  
方尤  
更金  
長海  
浪化  
蒼平  
小春  
南了



形更なや〜〜あを〜〜中條  
春行〜〜さき〜〜舟  
停棲〜〜さき〜〜舟の運  
己〜〜あ〜〜あ〜〜あ  
い〜〜あ〜〜あ〜〜あ  
あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ  
あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ

志 榮  
知 是  
木 陰  
一 舟  
才 後  
秋 坊

あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ  
あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ  
あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ  
あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ  
あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ

浪 化  
鼠 彈  
丹 岬  
三 東

内島

揚麻下本のね〜〜あ〜〜あ  
あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ  
あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ  
あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ  
あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ

正 秀  
浪 化  
雨 青  
和 丈  
厚 方

あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ  
あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ  
あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ  
あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ  
あ〜〜あ〜〜あ〜〜あ

四 腔  
己 東  
魚 季  
路 住  
倫 女

しら色はゆるかたなるは子親  
一ひまのくまをとくまの馬

月の夜はあやめびり

軍女  
子

杉杭のくまの中やけきき  
くまのくまのくまのくま  
田色をくまのくまのくま  
くまのくまのくまのくま  
くまのくまのくまのくま  
くまのくまのくまのくま

暁

くまのくまのくまのくま  
くまのくまのくまのくま

文平  
北枝  
風国  
十  
文  
旬  
支考  
林紅

千穂と依の元のくまのくま

日之くまのくまのくま

くまのくまのくまのくま

おのくまのくまのくま

月かくまのくまのくま

くまのくまのくまのくま

くまのくまのくまのくま

お佛くまのくまのくま

くまのくまのくまのくま

くまのくまのくまのくま

くまのくまのくまのくま

くまのくまのくまのくま

浪合  
鹿  
吏全  
胡中  
監吹  
巴  
才  
乙  
乙  
乙  
乙  
乙  
乙  
乙

其のうらみ障の因なき人ぞ  
 色のふのふしむらん  
 其のふしむらん  
 雀吹のふしむらん  
 花らりて香るりの親に満り  
 乙女のふしむらん  
 此のふしむらん  
 此のふしむらん  
 此のふしむらん  
 此のふしむらん

執

人 中 後 考 吹 弓 全 考 化 和 考 色

此のうらみ障の因なき人ぞ  
 色のふのふしむらん  
 其のふしむらん  
 雀吹のふしむらん  
 花らりて香るりの親に満り  
 乙女のふしむらん  
 此のふしむらん  
 此のふしむらん  
 此のふしむらん  
 此のふしむらん

中 全 考 吹 化 風 考 任 和 化 化 麦

若い花とあやふか舞やとて  
了り少くしの相感やと他  
ゆり事くいの之を古くあり  
挿除さきいりるの巻ふ  
能くあつてあきさくらひの  
是のさ巻とてうや行も  
うんた子影のやうに臨むあり  
そふくくすなはあつて  
同様の又やのて雨かぬきて  
滑るる庭中庭はやうな  
春のあつてさくらや咲き  
春のあつてさくらや咲き

子行化考唯考人風

うらつらりまされ影さつ  
たれやうりも礼節のあ  
あはもやあつてさくら  
田舎のうと田のうとあ  
桃ののあつてさくら  
さのさつらるるれ  
端蓋ふ何やとさつらるる  
ゆりさきさくら植の如  
有りのあつてさくら  
あつてさくら  
あつてさくら  
あつてさくら

化建子考麦人化子考

荒蕪さすの腰尾のあそび  
物とゆれくふを凡川者  
都々四六の凡々味あうら  
向正の人々集結して座  
座くすわくも世つたまは  
すのこころあやふおま  
梅座のあそびの座め坊  
こころあうの月あ  
物あうとあうあうあ  
胎のあうとあうとあ  
小座あうとあうとあ  
あうとあうとあうと

考人化中り考能進全化考能

舟車と持てあそびあそび  
あうとあうとあうと  
壬生の凡々あうの花とあう  
一毎座のあうとあうと  
あうとあうとあうと  
あうとあうとあうと  
物とあうとあうとあうと  
甲座あうとあうとあうと  
あうとあうとあうと  
野座あうとあうとあうと  
あうとあうとあうと  
分取れ門のあうとあうと

考能進全取考士吹人後能考

魂うつる根の本はえのたうそ原  
余がこころはさるはあかたを  
初めの夕顔の園をさうらあま  
走ら者乃さるるさ今あ  
陰裏あるまのそとえんあ  
陽あまの原さるるあ  
化すさるる程さるるあ  
さるるの根さるるあ  
あまのあまのさるるあ  
田舎乃さるるあ  
初め乃さるるあ  
陽さるるあ

士 後 化 字 者 兆 考 化 人 徒 吹 風

交 通

秋の色で紙のあかさと園の形

色月乃乃あかたのりり

あまのあまのさるるあ  
あまのあまのさるるあ

化 知

あまのあまのさるるあ  
あまのあまのさるるあ  
あまのあまのさるるあ  
あまのあまのさるるあ

西の法師

体と文

月見

あまのあまのさるるあ  
あまのあまのさるるあ  
あまのあまのさるるあ  
あまのあまのさるるあ

未 来 小 枝 已 未 否 麦

石月や方をと燃るをりし夜の物  
もろや丁の匂じのふけはけ  
夕月や分りつあしる影の松  
草のやふのぬきやじ降や冬あり

はるの山みづきしはるの夜にうらしの松や  
けしとともきやうらしの松や

浪化  
雨青  
奥素  
林陰

月のやうく月のさく身何部  
ゆめや帆とあらしは夜霧の  
雪とともくはくはくは月夜  
能の松のさし白松の月夜  
ふむのぬきをらやへしあはる  
夕月や分りつあしる影の松  
草のやふのぬきやじ降や冬あり

万子  
支考  
林紅  
虎角  
長水  
宇白  
夜草

楚胡之花下

セタニル

お疾  
は、  
は、  
は、

お疾のさくや星のさく  
お疾のさくや星のさく  
お疾のさくや星のさく  
お疾のさくや星のさく

文通

草のやふのぬきやじ降や冬あり  
夕月や分りつあしる影の松  
草のやふのぬきやじ降や冬あり  
夕月や分りつあしる影の松

浪化  
北枝  
支考  
野臺  
露川  
東推  
支草  
萩人

のつらりと色草のあけの徳餅  
あつとをたうあつと一平あつ

揮毫はせし

九右  
の腔

舞やとあつとあつとのたのた  
いらあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと

杉風  
万子  
互伴  
此紫

松風かのあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと

足通  
路青  
海人  
更全

瓢箪かあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと

風書  
自書  
才書  
修書  
正木  
山通  
東推

秋のあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつとあつとあつと

從吾  
北全  
一洞



ますしつて磯の徳とをさるる

馬の元

四つかづり

所をわくともさるる合々の十をさ  
平直是星の信やさる海つ  
彌生もあつと申し一巻丁の  
杉松やしつりさるる焼乾  
倉庫や樹進よと柳し

大草  
桐之  
才媛  
香物  
不流

鹿の跡

菊のまやとんてふるまは  
門番と菊一樹のあつて  
酒のさるるあつたのあ  
菊のまやとんてふるまは

馬  
北枝  
芦推

福光

さるる花とさるる合々の月の色  
鞍鞆のさるるさるる  
舟のさるるあつたのあ  
鹿のまの入りさるる破さるる

馬科  
柳士  
赤洗  
嵐青

馬の跡

花やさるるさるるのほさるる  
あつたあつたさるるさるるのあ  
冷さるるとさるるさるるさるる  
あつたあつたさるるさるるのあ

さるる  
林紅  
是地  
呂風

宰府春琳

歳秋の白毛と津のじりり  
あつたあつたさるるさるる

さるる  
流包

秋の夕暮しに思ひ出づる  
 子持の梅の香もてかきつら  
 鴨のよりこりけりあはれ  
 舟のりやうきくあはれ  
 海草と隣りあはれ  
 了れすすし物もかきまはり  
 日の暮る極みあてられむ  
 了子  
 藕糸  
 舟  
 己  
 牧童  
 少  
 少  
 少

悔風

悔風おきすしうきりうの梅とみりうきりうきりうきり  
 重あへの風あはれきりうきりうきりうきりうきり  
 十はれ直門はれきりうきりうきりうきりうきり

今はうきりうきりうきりうきりうきりうきり  
 うきりうきりうきりうきりうきりうきり  
 悔風の香もてかきまはり

うきりうきりうきりうきりうきりうきり  
 うきりうきりうきりうきりうきりうきり  
 うきりうきりうきりうきりうきりうきり

あまのこ

秋夕の夕暮しに思ひ出づる  
 子持の梅の香もてかきつら  
 浪化

七月半の梅の香もてかきまはり  
 舟中迅高の梅の香もてかきまはり  
 舟中迅高の梅の香もてかきまはり



行く道中此明くは修し心ごとく遠なる中つしよ  
其お中つしよの句をききしつる

梅つまふはつる佛の目りし花  
ちきり

くさるはれ朝日すつる多々花  
ちきり

百様のと年よあつるもめを  
諷竹

遠中れつれはつるつるやつ花  
手巾

きよつる青きみの物懸る中つ  
杉風

ワそのまのらききし

くはせははれはつるつる花  
ちきり

八月やしつるまのその底しり  
おきり

月あつしつるやま擬のちきり  
荊口

ちきり同書の元々

回つるはるやしつるつる花  
ちきり

七なるやしつる花つるつる花  
ちきり

はつる中つるつる花つるつる花  
ちきり

ちきりつるつる花つるつる花  
ちきり

ちきりつるつる花つるつる花  
ちきり

ちきりつるつる花つるつる花  
ちきり

ちきりつるつる花つるつる花  
ちきり

ちきりつるつる花つるつる花  
ちきり

ちきりつるつる花つるつる花  
ちきり

ちきりつるつる花つるつる花  
ちきり

ちきりつるつる花つるつる花  
ちきり

うねり 舟のよのねつと

元福寺 舟のよのねつと

浪化橋

七月 舟

舟のよのねつと

浪化

舟のよのねつと

浪化

舟のよのねつと

浪化

舟のよのねつと

浪化

舟

舟のよのねつと 舟のよのねつと 舟のよのねつと 舟のよのねつと 舟のよのねつと 舟のよのねつと 舟のよのねつと 舟のよのねつと 舟のよのねつと 舟のよのねつと

舟のよのねつと 舟のよのねつと 舟のよのねつと 舟のよのねつと 舟のよのねつと 舟のよのねつと 舟のよのねつと 舟のよのねつと 舟のよのねつと 舟のよのねつと

舟

舟のよのねつと

舟

舟のよのねつと

舟

新思

物のしほ場もさあ〜 風のそ  
初春の夢のうらやけはけのそ  
ゆきやちと〜〜 障あり  
ちやんぼね

拙きしじんよ〜〜 ちよの登  
うらやけの夢もさあ〜 夢見  
ゆきやちのそよよ〜 くら

牛のちやんぼ〜〜 ちよの登  
花〜〜 ちよの夢もさあ〜 夢見  
端切〜〜 障あり 今朝の雨

十病十歌

里谷 路通

鉦 秋人

親仁 胡中

納豆 夕兆

日和 呂夙

茶之花 林紅

時雨 吏全

憶久 嵐青

巾着切 水麦

月夜 浪化

文通

初名初也種梅のこられ後名あを  
才しや一風あはつる序し  
関しよこつるるわつし

許六  
全  
本守

江戸の御座り  
松屋  
舞子

傘の世もさつこつるあまきり那  
向らる初めたりさあわらさか  
くろさあはつあまきりわらさか  
あまきり一能事あまきりあまきり  
よまらるる序しよまのあまきり  
ししししあまきりつらつらあまきり  
やらしとあまきりししあまきり那  
あまきりあまきりあまきりあまきり

中  
形元  
徒吾  
拙妖  
吾仲  
風去  
あま  
二竹

六人のこあれおまはるれり  
梅園ア午の骨折序あるる

野草  
巴東

まのこつあまきりあまきり  
あまきりあまきりあまきり  
あまきりあまきりあまきり  
あまきりあまきりあまきり  
あまきりあまきりあまきり  
あまきりあまきりあまきり

北枝  
路青  
風草  
帰奴  
萩人

あまきりあまきりあまきり  
あまきりあまきりあまきり  
あまきりあまきりあまきり  
あまきりあまきりあまきり  
あまきりあまきりあまきり

桐之  
楚舟  
糾六

ちよきもきもあつてしつりか  
いよしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか

竹書

青い東城のあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか

浪化  
藕尔  
笑看  
可也  
芋菜  
吾仲

支考  
魚素  
柳介  
新如  
山之

所しつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか

極

極しつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか  
あつてしつりあつてしつりか

八  
胡中  
長如  
柳介  
主如

了  
柳玉  
十治  
其如



ついでとくらのまきつてひまき

鹿毛

ついでとくらのまきつてひまき

あつきたれまきつてひまき

丈草

三命命

川麻ついでとくらのまきつてひまき

今

川麻ついでとくらのまきつてひまき

いづまの柄ついでとくらのまきつてひまき

鹿毛

花毛

金輪の尾毛ついでとくらのまきつてひまき

小年

やうんついでとくらのまきつてひまき

野坡

肩ついでとくらのまきつてひまき

浪化

尻ついでとくらのまきつてひまき

新人

あつきたれまきつてひまき

北枝

海毛ついでとくらのまきつてひまき

柳毛

葉毛ついでとくらのまきつてひまき

句毛

花毛ついでとくらのまきつてひまき

了毛

西風の音毛

ついでとくらのまきつてひまき

元灌

ついでとくらのまきつてひまき

文砌

ついでとくらのまきつてひまき

不旧

毛蓋の垢毛

志賀の巻毛ついでとくらのまきつてひまき

素直

湯毛ついでとくらのまきつてひまき

逸正

毛毛ついでとくらのまきつてひまき

竹繁

わたくし花やとゆふにほれ

一 康

ふれは作らざる

萬うしほれそやけり形は布

うろ

文、割符、卸と活り

研丸ぬきさうし形のうらり

友年

これと木田島とさうの年ふ

厚る

形をよけ種やじさりり

海人

能ひの座と際りしおの中

雲端

二年ほど住め丸の幕障

柳士

このあそ花やとさうは

胡中

花のうらと花のうら

——— 中と花と木田島

其角

文通

そのあそ記あつたの年

涼莞

あそやたそあそ

芦木

あそはあそ

鳥水

あそはあそあそ

鳥水

あそはあそあそ

鳥水

あそはあそあそ

鳥水

あそはあそあそ

柳はあそあそあそ

杉木

あそはあそあそ

杉木

あそはあそあそ

杉木

月夜の着くらんんあやうき  
ふつ元のあつらう門の柳の柳  
馬籠中柳のうらやうつと利  
うらやうのうらやうのうらやう  
うらやうのうらやうのうらやう  
うらやうのうらやうのうらやう  
うらやうのうらやうのうらやう  
うらやうのうらやうのうらやう  
うらやうのうらやうのうらやう  
うらやうのうらやうのうらやう  
うらやうのうらやうのうらやう

呂 風  
冠 聖  
系 流  
柳 寺  
十 文  
ハ 余  
才 結  
長 此  
可 吟  
一 川  
如 宣  
自 笑

月一とんさやややのうらやう  
朝寺やうのうらやう  
うらやうのうらやうのうらやう  
うらやうのうらやうのうらやう  
うらやうのうらやうのうらやう  
うらやうのうらやうのうらやう

生 初  
何 由  
野 刀

海苔のうらやうあやうのうらやう  
雛衣のうらやうのうらやう  
柳のうらやうのうらやう

小 岸  
野 紅  
句 寫

月夜のうらやうのうらやう  
月夜のうらやうのうらやう  
月夜のうらやうのうらやう

石 紫  
汶 村

うらやうのうらやうのうらやう  
うらやうのうらやうのうらやう  
うらやうのうらやうのうらやう  
うらやうのうらやうのうらやう  
うらやうのうらやうのうらやう  
うらやうのうらやうのうらやう

かゝるものゝららや... 庭の夕陰  
は... 夕の光  
さ... 夕の光  
あ... 夕の光  
夕... 夕の光

兼見

草... 老の袖  
木... 木因  
九... 九次  
温... 温故

人日

庭... 老の袖  
一... 九次

梅の老... 九次

北... 北枝  
転... 転舟

二首の抄

君... 君之  
知... 知足  
是... 是通  
桐... 桐  
初... 初笑

浪化

新下すもさるるも 浪化の波  
高きもさるるも 浪化の波

浪化

又送つるもさるるも 浪化の波  
松の葉もさるるも 浪化の波  
新下すもさるるも 浪化の波  
高きもさるるも 浪化の波  
又送つるもさるるも 浪化の波  
松の葉もさるるも 浪化の波  
新下すもさるるも 浪化の波  
高きもさるるも 浪化の波

浪化  
巴東

又羊  
諷竹  
松堂  
悠吟  
佐吾  
菅山  
形如  
千川

歴代著名なむむや 余は此の地の形  
是の地も名は川 川もさるるも  
揮毫の志もさるるも 浪化の波  
岸者地もさるるも 浪化の波  
高きもさるるも 浪化の波  
又送つるもさるるも 浪化の波  
新下すもさるるも 浪化の波  
高きもさるるも 浪化の波

真末  
市井  
大虚  
松化  
更奈  
林如  
小松  
形如

柳の木のしんすもさるるも 浪化の波  
世の人のしんすもさるるも 浪化の波  
柳の木のしんすもさるるも 浪化の波  
世の人のしんすもさるるも 浪化の波

柳の木のしんすもさるるも 浪化の波  
世の人のしんすもさるるも 浪化の波

更奈

梅

静よりこれつるや来のそら  
十のやうなとすのいふつるり  
梅のしほのよりのりし  
しうのやうなとすのいふつるり  
来のそらつるり  
梅のしほのよりのりし  
しうのやうなとすのいふつるり  
来のそらつるり  
梅のしほのよりのりし  
しうのやうなとすのいふつるり  
来のそらつるり

梅のしほのよりのりし  
しうのやうなとすのいふつるり  
来のそらつるり  
梅のしほのよりのりし  
しうのやうなとすのいふつるり  
来のそらつるり

依人  
青  
此  
八  
文  
呂  
吏  
全  
風  
初  
索  
角  
考

梅のしほのよりのりし  
しうのやうなとすのいふつるり  
来のそらつるり  
梅のしほのよりのりし  
しうのやうなとすのいふつるり  
来のそらつるり  
梅のしほのよりのりし  
しうのやうなとすのいふつるり  
来のそらつるり  
梅のしほのよりのりし  
しうのやうなとすのいふつるり  
来のそらつるり

支考  
其角  
路健  
蔭人  
蒲月  
新和  
壽壽  
以年  
以夏  
三通  
曾良  
杉尾

形之類集

このよりなるものなるや梅の花  
ひさし月と年月のくさくさ梅の形  
何れも形の出ずるや志のん

浪化  
北枝  
万子

や研し瓦下尾

右 俳諧 楚胡之花 上下之  
卷者 角南氏 白圭子 求  
延享 第二 稔 乙丑 彌生 初  
六 爲 寫 合 卷 之 者 也

於ていづる故にんをとらむれ

中 金糸林宗尾

在樹百人

葉  
第廿二

四	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五
四	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五
四	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五
四	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五

五  
五



